

会長挨拶

「酪農教育ファームに行ってください。心があったか、優しくなるよ」

「酪農教育ファームに行ってください。心がわくわく、元気になるよ」

「酪農教育ファームに行ってください。命が、生きるが、わかってくるよ」

酪農教育ファームでは、食の原点にある命を実感できる。牛に触れ、酪農家の思いに触れ、命を大切に思う優しい心の子どもが育つ。そこに行けば学校教育が変わる。

酪農の教育力を伝え広め、日本の酪農を、そして農業をもっと元気に！我々日本酪農教育ファーム研究会の願いです。

平成 22 年 8 月 6 日、日本酪農教育ファーム研究会が発足しました！

研究会設立の原動力は、酪農教育ファームへの会員の熱い思い

酪農教育ファームというシステムが我が国にできて以来、牧場を教育に提供しようとする酪農家や、酪農教育ファームを有効活用しようとする教師（学校）の熱意ある実践は途絶えることなく重ねられてきました。この火を絶やすまいと多くの教育関係者、多くの酪農家が、それぞれの信念をもち、様々な課題を乗り越えながら努力を積み上げてきたのです。その思いの結集がこの『日本酪農教育ファーム研究会』の設立の原動力になりました。

酪農教育ファームの教育的価値の普及を

平成 17 年制定の食育推進基本計画の中にある『教育ファーム』という言葉のもと、『酪農教育ファーム』にあります。酪農教育ファームはまさに日本の教育ファームの先駆けであり、今後も教育ファーム活動推進の中核となることは間違いありません。それは、酪農が他の農業と峻別できる教育的価値を有しているからです。その教育的価値とは、

食の原点には命があり、自分たち人間は、その命を食糧に変えることで生きていることをより強く実感できる。

そして農業は、その命を農作物として人々に提供する重要な産業であるということをも強く実感できる。

更に農家の人たちは、命を慈しみ、命により添い、愛情を注ぎ育てる仕事にプロとしての誇りをもって働いていることを酪農家の言葉や生き様から強く実感できる。

酪農教育ファームに行けば、子どもたちは、この教育的価値を命の温もりを感じながら、体験を通して学んでいくことができるのです。

食育という切り込み口から見ても、昨今、食育の専門家といわれる方たちの中にも、食育そのものを『調理+栄養学』ぐらいに捉えている方もいる残念な実態があります。もちろんそれも大事ですが、食育で何を学ぶにしても、まず大切なことは、食べ物に感謝する思いがしっかりと育成されているかということです。『いただきますに心が込められる子ども』に育っているかということです。酪農教育ファームは、そこを大事にしたのです。つまり、酪農教育ファームでは、生きた牛に触れ、体温を感じ、酪農家の思いを知り、自分の命の基がそこにあることを諸感覚を通して学ぶことにより、食育を充実させる上からも、他の農業では深めたくてもなかなか深まらない『いただきますは、いのちをいただくこと』の意味を実感させる教育を実現したのです。

また、学校教育に焦点を当てると、今の学習指導要領で目指す「生きる力」として必要な思考力、判断力、表現力の育成のための豊かな体験の場としても、酪農教育ファームの存在意義は大きいのです。先にあげた教育的価値と関連して、『牧場における体験の中で牛やその他の家畜と触れ合い、命や食の大切さを実感的に学べること』『産業としての酪農家から、日本の農業の現状について課題意識をもって学び、農業のあるべき姿を国民の一人として考えるようになること』『酪農家とかかわり、仕事や生き方の素晴らしさを学び、日本の農業に誇りをもつようになること』など、今後、各教科、総合的な学習の時間の充実はもとより、『食育』『キャリア教育』『道徳教育』などの観点からも、酪農教育ファームのもつ教育的な可能性や潜在的なニーズは高まっていくでしょう。

こうした酪農教育ファームの素晴らしさを教育界にアピールしていく役割も、本研究会は担っていこうと考えています。

酪農を生かした教育実践の共有とネットワークの確立を目指して

牧場における教育活動は、これからもますます増えていくことと思われます。今後は、その活動の質を高めると同時に、現在までに積み上げられた、そして今後も開発されるであろう優れた実践を共有し、他の地域の酪農教育ファームにおける活動にも活かせるシステムを作ることが大切になります。そして、全国の酪農教育ファームにおける活動の成果と素晴らしさを世の中に積極的にアピールしていくことです。その取組を通して、酪農教育ファームとなる牧場を増やし、そこにおける価値ある実践を積み上げていく教育機関や教師を増やしていくことです。

こうしたネットワークの拠点として、我々『日本酪農教育ファーム研究会』が果たす使命を強く感じながら、酪農家の方たちとのスクラムを基盤にして活動を推進してまいります。本研究会の活動が、酪農そのものの理解を促進し、それがやがては日本の酪農を大切にする消費者を増やすことにつながることを信じています。

最後に、本研究会は、会の実践研究活動を通して『食といのちの学び』の充実、発展に

資することを大きな目標にしています。会の僅かな会費で運営されるために、定例研究会を頻繁にもつことはできません。しかし、今後も年に一度は、会員が一堂に会して研究の成果や互いの酪農教育ファーム実践への思いを確認し合う場は設けていきたいと思っています。セミナーや研修会も実施したいとも考えています。また、このホームページを有効に活用しながら、会員同士の日常的な実践や研究内容の報告、情報交流を活発に行えるようにします。

こうした会の趣旨や活動への思いにご賛同いただける教員や研究者、栄養士、酪農家の皆様、どうぞ、ふるって本会にご入会いただき、共に学び、酪農教育ファーム活動をさらに充実発展させるためのネットワークをより強固にしていまいりましょう。また、酪農や食育そのものに興味のある方、学生さんも大歓迎です。入会をお待ちしております。

日本酪農教育ファーム研究会会長
新宿区立東戸山小学校幼稚園長 國分 重隆

